

令和5年度自己評価書及び学校関係者評価書

令和6年3月14日
札幌市立簾舞中学校
36004

1 学校教育目標「緑の風に夢のせて 未来を拓く人となれ」

2 本年度の重点目標

夢の実現に向け自己を内省し(気づき)、自己肯定感に基づき(認め)自ら向上しようとする生徒(実行する)を、「アタマ」「ココロ」「カラダ」「ナカマ」を育てる教育活動を通して培う～「気づき、認め、実行する生徒」の育成～

3 学校経営の基本方針

- (1) 「学ぶ力」の育成
- (2) 「豊かな心」の育成
- (3) 「健やかな体」の育成
- (4) 特別支援教育の充実
- (5) 小中一貫した教育と信頼される学校の創造

4 自己評価結果

アンケート回答結果→A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

「%」=肯定率(Aの%+Bの%)を表わす。回答結果(肯定率)が、70%以上ならA、45～70%ならB、45%未満ならばCと評価

分野	評価項目 (上段の数値は、A+Bの回答数)	自己評価		学校関係者評価	
		回答数 肯定率	改善の方策	適切さ	
		自己評価		自己評価	改善策
学習指導	1 わかりやすく、理解しやすい授業を行っている。 教職員 = 15 名 保護者 = 63 名 生徒 = 70 名 全回答数 163	148 90.8% A	○ICT機器の活用が前年度より進み、生徒のICT活用アンケートによると端末を使用することで、学習が楽しいまたは、役に立つと答えた生徒の割合が約8割である。今後も機器を活用した協働的な学習を通して、情報活用能力の育成を図る。 ○今年度は3教科で少人数指導を行った。今後も、ティーミング等を効果的に活用し、指導の充実を図る。	A	A
	2 総合的な学習の時間は生徒にとって役立つものとなっている。 教職員 = 18 名 保護者 = 67 名 生徒 = 66 名 全回答数 165	151 91.5% A	○学年ごとのテーマに沿った学習を協働的に行う。来年度も学年で必要とされる外部の人材を活用するために、外部団体と連携しながし、生徒の興味・関心を高める学習展開を図る。 ○「ICT機器を活用しながら疑問や課題の解決をしよう」と約8割の生徒が回答している。今後も、機器を効果的に使用し、情報を集め、調査や研究のまとめを行う。	A	A
	3 生徒に家庭学習に取組ませ、学習の習慣化を図らせている。 教職員 = 14 名 保護者 = 35 名 生徒 = 35 名 全回答数 165	84 50.9% B	○学年ごとに、学習会を行い、学習の習慣化につなげる。また、小中連携での研修会を通して、家庭学習の習慣化を共通課題として把握する。また、課題の出し方を工夫をする。 ○「さっぽろっ子学びのススメ」なども活用しながら家庭との共通理解のもとでの取組を進める。	A	A
学校関係評価者による意見		・放課後の学習会を実施するなど、習熟度学習の少人数の工夫をするなど、学力の底上げを図るとよい。習熟度学習のクラス分けは、自ら選択することにより、学習に対する意識も変わるのではないかと。 ・英語教育はこれから重要度がさらに増してくるので、視聴覚教材やICTを活用するなど、普段の授業の工夫の他に、英検などを取り入れ、生徒の学習への主体性を育成してほしい。			
生徒指導	4 学校生活のきまりを守り、落ち着いた学校生活を送る生徒を育てている。 教職員 = 18 名 保護者 = 70 名 生徒 = 68 名 全回答数 165	156 94.5% A	○委員会活動の充実を図り、生徒自身が考える場面を作る中で、生徒の規範意識を高める。 ○生徒の心の動きを早期発見できるように、教育相談活動の充実とスクールカウンセラーや相談支援パートナーの積極的な活用を図る。 ○生徒への声かけを積極的に行い、見守る中で、生徒との信頼関係づくりを大切にしたい指導を行う。	A	A
	5 しっかりとあいさつができる生徒を育てている。 教職員 = 14 名 保護者 = 68 名 生徒 = 68 名 全回答数 165	150 90.9% A	○小中連携の中で一つの課題として捉え、意識の向上を図っていく。 ○委員会活動において「あいさつ運動」を展開し、生徒の自主的な活動を通して「あいさつ」に対する意識を今後も高めながら、しっかりとあいさつのできる生徒を育成していく。	A	A
	6 時間を守って学校生活を送っている。 教職員 = 13 名 保護者 = 64 名 生徒 = 65 名 全回答数 165	142 86.1% A	○朝の玄関指導での声かけや家庭との連携を密にしながら、「時間」を守らせる指導を継続して行う。 ○学級指導の中で毎日の生活リズムの確立を含めて、生活指導を随時行っていく。	A	A
学校関係評価者による意見		・コロナ禍でマスクをする生活が続いたので、互いの表情がなかなか確認できなかったが、マスクをする頻度も下がり、最近はいいさつをする生徒の表情も見えるようになってきた。 ・部活動が減ってしまった関係で、他学年との接点が委員会、担任そして教科担任以外との接点が少なくなってきたことから、朝のあいさつや委員会で交流していただきたい。 ・常にあたたかく接して、生徒が笑顔になるように見守っている様子がわかります。			
進路指導	7 夢や目標を持って生活する生徒を育てている。 教職員 = 14 名 保護者 = 41 名 生徒 = 50 名 全回答数 165	105 63.3% B	○総合的な学習の時間・道徳・学級活動の授業や進路探究学習の取組を通して、自己を多面的に見つめさせることで、自分のよさに気付かせ、自己肯定感を高める。 ○専門学校の講師による体験や、さまざまな分野で活躍している社会人による職業学習をキャリアパスポートの取組と連携させ、生き方指導としての進路指導の充実を図る。	A	A
	8 進路情報の提供を行い、生徒の進路決定に役立てている。 教職員 = 16 名 保護者 = 58 名 生徒 = 61 名 全回答数 165	135 81.8% A	○今年度は高等学校の先生を招いての進路講演会を行った。来年度も高等学校の先生を招いて講演会を行い、進路に対する意識を高める。 ○進路便りで情報を常時提供するとともに、学校HPにも掲載する。また、学年PTA集会や懇談等で適切な時期に保護者に対しても説明の機会をもつ。	A	A
学校関係評価者による意見		・上級学校へ進学するにあたって、どのような職業があるのかが、生徒にはわからないところがある。中学生の時からその先を考えることのできる進路指導をお願いしたい。 ・高等学校の先生を招いて講演会を行ったのは、とても良い案だった。生徒の進学先の選択肢が広がることから、今後も続けてほしい。			

分野	評価項目（上段の数値は、A+Bの回答数）	自己評価		学校関係者評価	
		回答数 肯定率	改善の方策	適切さ	
		自己評価		自己評価	改善策
特別活動	9 行事は、喜びや感動があり充実したものとなっている。 教職員 = 17 名 保護者 = 64 名 生徒 = 69 名 全回答数 165	150 90.9% A	○旅行的行事など、生徒の自主性を重んじた活動を行う中で、達成感や成就感を得られる行事の企画・運営に努める。 ○「健やかな体の育成」に関わって体育的行事である「体育祭」はは体力の向上だけでなく、生徒の自主的な態度の育成を効果的に図ることが出来ている。また、「総合学習発表会」等文化的行事を通して、生徒の育成を体系的に図っている。	A	A
	10 生徒会行事・学級活動を通じて、生徒を成長させている。 教職員 = 17 名 保護者 = 67 名 生徒 = 68 名 全回答数 165	152 92.1% A	○募金活動や玄関のメッセージの掲示など生徒会企画を通して、人権尊重の精神を醸成する。 ○学級活動・各委員会・生徒総会などでの討議を通して、協力して諸問題を解決していこうとする自主的、実践的態度を育成する。 ○地域清掃や雪かきチョボラなどの活動を通して地域貢献の姿勢を育成する。	A	A
	学校関係評価者による意見	・地域貢献の姿勢を育むことができる、地域清掃や雪かきチョボラの活動はこれからも継続していただきたい。 ・地域の施設を活用した活動、例えば北方自然教育園を活用するなど、生徒の情操面を育成することができる特別活動を学校として、今後検討してみてもはどうだろうか。			
	部活動を通じて、生徒を成長させている。 教職員 = 16 名 保護者 = 60 名 生徒 = 56 名 全回答数 165	132 80.0% A	○生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動（含：学校間連携）については、生徒の成長を促す活動となるものとする。 ○部活動指導者・学年・学級間で折にふれ、報告・連絡・相談を繰り返しながら生徒に関わる情報を共有していく。	A	A
施設・設備	12 便りなどで、保護者や地域へ情報提供を行い教育活動への理解を深めている。 教職員 = 18 名 保護者 = 68 名 生徒 = 69 名 全回答数 165	155 93.9% A	○学校ホームページを活用し、地域や保護者の方に学校の活動や最新の教育情報を広くお伝えする。 ○学校だよりの工夫を図り、これまで以上の情報発信に努める。 「学校保護者連絡システムすぐる」を活用し、迅速な連絡に努める。	A	A
	13 学校の施設・設備を効果的に活用して教育活動を行っている。 教職員 = 18 名 保護者 = 65 名 生徒 = 67 名 全回答数 165	150 90.9% A	○学校設備であるchromebookなどの端末の活用をさらに推進し、学習効果を高める。 ○定期的に施設内の点検活動を行い、日常の設備の修理・修繕および更新・改修などの機会をとらえて、施設・設備の改修を関係部署に要請していく。	A	A
	学校関係評価者による意見	・学校のHPをより活用して、廉舞中学校の様子が見えるように生徒や学校の活動をたくさん紹介していただきたい。 ・「すぐる」の活用の幅がもっと増えれば、資源節約や提出物の出し忘れも減ると考えられるので、これからも積極的に活用していただきたい。また、PCやchromebookを使用することで、生徒にITに触れさせていただきたい。			
	14 保護者や地域からの意見を聴き、学校改善に役立てている。 教職員 = 18 名 保護者 = 63 名 生徒 = 名 全回答数 92	81 88.0% A	○学校評価アンケートだけではなく、学級・学年PTAや学期末の個別懇談など、保護者との「直接的なコミュニケーション」の機会を工夫する。 ○学校だよりや学校HPのさらなる充実を図ることで、発信力を高め、地域・保護者との連携を深める「開かれた学校づくり」を進めるとともに、さらに「安心・安全な学校」となることを目指す。 ○サマーコンサート等の地域行事の復活を通して、地域との連携を図る。	A	A
保護者・地域との連携	学校関係評価者による意見	・地域との連携では、以前あったグリーンタイムもなくなり、少なくなったと思うが、生徒の成長のためになる、地域が積極的に協力できるような授業があると良いと思う。 ・この4年間コロナ禍でできなかった活動を徐々に再開して、地域の方とも交流できるような行事を増やしていただきたい。 ・昨年、再開したサマーコンサートのように、小学校と一緒にできるような行事があれば良いと思う。			

学校関係者評価者による「全体に対する付帯意見」

- ・生徒たちが今後も、学びたい、楽しみたい、通いたいと思える中学校を目指して教育活動をしていただきたい。
- ・少人数の学校なので、先生の数も少なく負担が多く大変だと思います。いつも子供たちのためにありがとうございます。
- アットホームな地域だと思いますので、ぜひ地域の力を借りてより良き学校となると良いです。
- ・学校だより等で学校の様子がよくわかります。